

現代心理学編 第2部

全11巻

監修●早稲田大学教授本明 寛/筑波大学教授金子隆芳

■時間:各巻 約20分

1 メンタル・モデル

〈指導〉上智大学 西川泰夫

●カラー

メンタル・モデルとは、身体内外の物理的出来事から成り立つ物理的世界（環境）に対して、心内に再構成された心的世界のことである。また、物理的世界に関する予期図式（モデルないしイメージ）である。

その基本的な機能は、生体と内外の環境との間に一定の距離を保ち、生体の恒常的な生存をはかるとともに、それへの多様でかつ創造的なかわりを可能にすることにある。

この作品では、それらをふまえ、心内地図（メンタル・マップ）、心内操作（イメージの生成、心的回転、論理操作）などの現象を取りあげる。

2 ストレスと行動

〈指導〉上智大学 平井 久

●カラー

社会生活を営んでいく上で、誰もが日常的に何らかのストレスに直面している。暑さや寒さ、騒音というような物理的ストレスだけでなく、様々の心理的ストレスにさらされる機会が増えている。

この作品では、心理的ストレスが生体の行動や生理に及ぼす影響についての実験を紹介し、さらにストレスを原因とする身体疾患の治療の一手法であるバイオ・フィードバック法についても解説する。

3 コンプレックス

〈指導〉京都女子大学 大塚義孝

●カラー

この作品は、マザー・コンプレックスや学歴コンプレックスといわれるような、一般になじみのある《心のわだかまり》としてのコンプレックスから、フロイトやユング等が洞察した無意識の観念複合体としてのコンプレックスに至るまで、主として臨床心理学視点から、その意味を考察する。

心理テスト（ソンディ・テスト等）像におけるコンプレックスの姿や、記憶理論から把握されるコンピューターを用いてのコンプレックスの接近法も、コンプレックスの映像化の課題として考えてみたい。

4 ノンバーバル行動

〈指導〉早稲田大学 春木 豊

●カラー

人間は常に動いている。特に、他人との関わりの中での人間の動きは、自分にも他人にも無意識のうちに大きな影響をもつ。

これは、ノンバーバル行動、またはノンバーバルコミュニケーションのテーマとされてきている。

この作品では特に、人と人との接触（タッチ）と空間のとり方、及び視線や微笑のような表情とうなずきのような動作が、対人関係の中でどのように起っているか観察し、またこれがどのような効果と意味を持っているかを明らかにしたい。

5 やる気と原因帰属

〈指導〉 日本女子大学 宮本美沙子
東京学芸大学 下山 剛
●カラー

ある事柄における成功や失敗の原因をどうとらえるか、という原因認知は、課題の性質、先行経験、やる気の強さなどにより影響される。

それと同時にその原因認知は、次の課題に対するやる気の強さにも影響を与える。こうした原因認知の問題を原因帰属という。

この作品では、子供たちの学校生活場面や大学生の課題解決場面を通して示される原因帰属の様式を紹介し、やる気との関係を考察する。

6 心理劇

〈指導〉 筑波大学 台 利夫

●カラー

生活の中で困難に出会ったり、創造を目指したりすると、過去や現在や未来の場面も考えて、解決の緒を探る。

もし、このような場面を他の人々と共に、即興的にしかもなるべく具体的に想定し、そこでの人物（役割）が自発的に身体を動かしてみると、意外な事に気づいて解決の実際的手掛かりが掴めるだろう。これが心理劇である。

この作品は、心理劇の一例を示すとともに、この技法を学ぼうとする人の研修にも役立つだろう。

7 ビジュアル・イリュージョン

〈指導〉 千葉大学 野口 薫

●カラー

視覚世界におけるイメージは、どのような法則によって形成され、秩序づけられているのか。

この作品は、1. 図と地の分化 2. 錯覚と恒例常視 3. 主観的輪郭と透明視 4. 運動による立体視などのゲシュタルト現象 をとりあげ、視覚世界のイメージは、物理的世界の情報の受動的処理の結果ではなく、私たちの創造的知覚運動によって形成されることを示す。

8 流行の心理

〈指導〉 武蔵野美術大学 千々岩英彰

●カラー

私たちは流行の渦中にあるが、流行を動かしている社会的メカニズム、流行の原因、抑止因、機能、法則について、知っているわけではない。

この作品では、色の流行現象を例にとり、現代色彩の趨勢、色の流行を仕掛ける側の戦略、伝播と消長のプロセス、色の流行を採用する人々の心理的特質等について考察することにより、流行現象を理解するためには、その時代の社会構造や社会心理との関連を問うことの必要性を考える。

9 ヒューマン・スペース

〈指導〉 東京工業大学 乾 正雄

●カラー

人口密度の高いわが国の都市では、人間をどのように移動させ、仕事をさせ、休憩させるのがよいか、ということに沢山の問題がある。

駅構内や電車内の雑踏は、どうさばいたらよいのだろうか。オフィスの大部屋と小部屋、机配置では互いに向い合わせになっているのと個別に壁に面しているのでは、どちらがよいのだろうか。どんな喫茶店が一番くつろげるのだろうか。

このようなヒューマン・スペースのあり方を、環境心理学の知見を基礎にしてこの作品で考察してみよう。

10 チンパンジーの記号行動

〈指導〉 京都大学霊長類研究所 室伏靖子

●カラー

類人猿に手話や図形語を教える、いわゆる“言語訓練”の成果が、近年注目を集めている。この作品は、実験的場面を用いて、そのような“言語”的行動の基礎となる過程、すなわちチンパンジーは記号をどの程度習得し、理解し、またどのように使うかについて解説する。

11 開眼手術—初めて見る世界—

〈指導〉 東京大学 鳥居修晃

●カラー

角膜疾患や白内障により生後早期に失明した場合でも、開眼手術によって「光」を取り戻すことができる。

だが、その残存視覚が明暗や色彩を知覚し得る程度であった場合には、眼を開いても当初は図形の「立方体と球」や奥行距離の弁別が困難で、事物を見分けることもできない。

この作品は、処女開眼の状況やその直後の視覚体験の様相を具体的に伝え、手術後、視知覚が次第に形成されてゆく過程を種々の実際場面を通じて、描いたものである。

・お問合せ・お申込みは

(映) 有限会社 博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp> 【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp